

神宮の琴



神宮の日の出
世界を照す

北村

大宮内は國民精神淵源地、充分時間の御餘裕を

意義ある参宮・善印象は即ち教育勅語の御精祿

- 一 山田驛下車すぐ正面一丁(外宮) 豊受大神宮神苑入口
一 早朝御清め湯のある高千穂館で入浴心身清淨御参宮
一 神宮衛士見張所へ校名團長住所氏名人員明記御届け
一 尚此所で宮域内規定の内容能く會得特に用便を達し
一 御賽錢は(手や口をお清め前に)白紙に包み御用意
一 豊受宮大御前に奉賽し外玉垣際より大内御模様拜觀
一 和合の若杉に共榮の姿、偉大な靈杉に不言の教を感受
一 多賀宮(豊受大神宮荒魂奉祀)土宮風宮ぜひ御参拜
- 片そぎの千木は内外にかはれども
- 誓ひはおなじ伊勢の神垣 朝 棟 神のめぐみを思へ世人
朝よひにものくふことに豊受の
- 一 兩宮の大麻を拜受(御神慮を畏み)神棚に一神御奉齋
一 御神樂奉奏御饌奉奠一萬度大麻數を能く取調べる事
一 各自拜受は混雜し時間を要す一纏めに受けらるべし
一 御賽錢奉獻、御守、御印自由拜受には便宜ご監督注意
一 外宮御參宮をして内宮へ參宮之れが正しい參宮順序
一 不淨よけ「無垢鹽草」を一般に高千穂館にて御進呈
一 尚詳細説明御希望の方は旅館神苑入口公認案内者あり

本冊子の發行と贈呈に就て

全國各地の修學旅行學生達の御參拜の仕方は區々にして一定せず、又其所持せらるゝパンフレットには、あまり種々多様の誤記あり。御神威の程も恐れ多く、且つ純真なる兒童の將來を迷はしむるものと其度ごとに遺憾に存じますので不省神都の地に永住させて頂き代々御參宮の御余光に浴する館主とし、殊に愚息共は當市々會議員（學務員）の末席を汚し又敬神深き遠來參宮者を正しく案内する者の指導を掌り居る關係上、此儘に看過し去るは大方各位に對しても不忠實なりと存じ正確なる案内參考書を作り度不敏を顧みず自分の見聞と氣附いた事を略記し、神宮に御關係の方々は勿論各方面篤學の名士を歴訪御教示を乞ふて之が正しい之が宜しいと信じた事を集錄して純真なる學生兒童に正しき統一的な参宮の印象を與ふべく發刊致しました。

元來神宮に關する記事に就きあまり理論に走るは、御尊嚴を汚し不敬と存じますから取捨は御隨意と致し幸ひにして記載の所說に御賛同下さる方は正しい一定の記事として、學生達は勿論御家庭にも常に其御心得を以て、敬神崇祖の誠意を貫徹せられたいのであります。

尙訂正すべき點、増補す可き記事、進んで正しき敬神の御投稿を賜らば喜んで改訂増補致します。蓋し之れ獨り不省の幸慶に止らず、又以て弘く公に益するもので、是非舉國一致の實踐を計りたいのであります。

大御神の御神慮に又神宮に尊崇篤き 聖上陛下の大御心に叶ふ事、吾等臣民の本分と信じ、斯く廣く御贈呈申上の次第であります。請ふ諒こせられん事を。

北 村 甚 藏

◎本葉末頁の御答を御記入の上先生の御手元へ御差出し下さいませ



純眞なる學生兒童達の御參宮に統一的印象を

神宮とは天照大神宮(外宮)、内宮)豊受大神宮(外宮)の公なる御總稱である、單に「神宮」とのみ申上げるのが正しい。

伊勢の大神宮へ参ることにて他の神社へは参拜若くは参詣と言はれてゐる。

兩宮共に御同様の奉齋にして御神樂、授與の大麻等總て御同一のお扱ひである。

内宮「ナイクウ」宮の字を外宮「ゲクウ」宮の字を清音に稱し奉る。

豊受の神は天照大神のいつきまつらす御食の大神 宣長

十 月 神嘗祭

十五日 外宮

十六日 内宮

十七日 内宮

神宮 大祭 一般の仕方

奉賽 参拜 御印 脱帽 參進

大麻 清淨 潔齋

奉賽 参進

大麻 清淨 潔齋

府縣 郷村 社 と 先祖 神棚 神宮 皇居拜 と 奉頌 參拜 正式 參拜

(神職會の例)

（任意）

（宗旨宗教の神様でない）

（宗旨宗教の神様でない）

（宗旨宗教の神様でない）

（宗旨宗教の神様でない）

（宗旨宗教の神様でない）

（宗旨宗教の神様でない）

（宗旨宗教の神様でない）

（宗旨宗教の神様でない）

瑞たき參宮、元氣に愉快に。

宮域内は格別静肅謹嚴。

神宮、神社には拜禮をなし、

佛閣參詣には禮拜をなす。

拜禮 禮拜

神宮 皇居拜

奉頌

參拜

正式 參拜

神棚

府縣 郷村 社 と

先祖

拜禮 禮拜

男子 正裝 通常禮服 制服

女子 敷服羽織袴

ドレス

白襟紋付 制服

明治天皇御製

奉頌奉讀を行はるゝ其の有様は實に崇美である。強てお勧めはされども少くも此の態度を勿論、鉤一つに取外づしたる心持ちは以て落着いて、ゆつと集印帳には各自姓名を明瞭に記入して、之れを取まざめて代表者をして大麻授與所に申出る事にせば、混雜なく參拜をするため、遠方より投げたり或は遂に奉奠の機を逸し、持ち歸らるゝ方を見聞し遺憾に思ふ。

板垣御門内にて大聲の號令を謹守一般參拜者大宮内の御様様を拜するに不便なきやう外玉垣際上記の順序に従ふことは神宮尊崇の大御心厚き、陛下の御聖旨に叶ふことである。

本人は勿論、家族知友より依頼されながら列を離れる事出来ざるが、こは全國に及ぶことを希望してやまない。

板垣御門内に大御前に參進拜禮に於けるが、神宮は神樂殿へ昇殿の時、履物等に觸れた手を無垢鹽草にて不淨を清められたし。

大麻を拜受し、又集印帖に御印を頂くには豫め各人の拜受數と

神宮皇學館初め市内各學校生徒の參拜に當つては一の鳥居にて全部脱帽して整列のまゝ參進せられたいものである。

神宮皇學館初め市内各學校生徒の參拜に當つては一の鳥居にて全部脱帽して整列のまゝ參進せられたいものである。

伊勢大廟等の文字を用ひ、各學校旅行のパンフレットには何れも「神宮」と一定して記載し児童に正稱を記憶せしめたい。いづれの字引、辭典を見るも參宮の文字の解釋は伊勢へ參るここと記さる日本唯一の文字であることを注意を要す。

陛下御親謁又は諸祭典等總て外宮を先きに行はせらるゝは御神勅による事に拜しあれば一般的の參宮も此の順序が正しいのである。

参宮の文字の解釋は伊勢へ參る事に正稱を記憶せしめたい。

いづれの字引、辭典を見るも参宮の文字の解釋は伊勢へ參る事に正稱を記憶せしめたい。

伊勢大廟等の文字を用ひ、各學校旅行のパンフレットには何

れも「神宮」と一定して記載し児童に正稱を記憶せしめたい。

我が尊敬する伊勢參宮の方々に、特に御願ひして、先づ御參宮前に、是非本書を一讀せられ、「成る程、これは心得て置かねばならぬ」

この御同感を得、そして其の御共鳴を賜はることに依り、日頃篤き神宮崇敬の御誠意の尊き現れであらせらる、折角の御参拜を、尙一層意義深からしめ、瑞たき伊勢御參宮に、必ずや其皆様が一様に胸に湛えらるゝ、其尊き御感激と御本懐を尙より以上に深く大ならしむる處がありたい。そして併にともに廣大なる御神徳を頌へ、御神恩に應へ奉る處がありたい希望であります。

神宮の日の出世界を照す。北 村
曉靄こむる頃、神宮御手洗舎のほとりに立つて滾々として湧き出づる清水に口嗽き神燈淡き參道を進み行けば神域の靈氣自ら身に沁みて心身諸共に潔められる。

畏くも天照皇大神の常に尊崇し給へる祖神豊受大御神の大御前に額づき、衣食住萬物成育の御神恩に謝し「更生一意將來の覺悟を照覽ましまし、こゝに内外兩宮を同時に奉拜する忝なき思ひに咽ぶのである。

日は神宮より輝きそめて御稜威は世界萬邦を遍く照す、尊しやく意義ある其御光りを奉じ、日本國民の進出する處必ずや其輝きを現はさすには置かないのである。

あゝこの時、燦としてさし出づる日の出！光華明彩六合に光り渡り日の神天照皇大神のおほいつくしみは吾が捧げし祈念と

崇嚴なる神域に進み大廣前に額づく時何處に芥子粒ほどの邪念も在りませうや「何事のおはしますかは知らねども忝なさに涙こぼるゝ」の靈感は神慮と吾が真心とピツタリ合致する所以であります。此合致はやがて忠君となり、愛國と成り、一家圓満

となり、各事業成功となり、商賣繁昌となり農蠶豐饒と成り、海に於て大勝を博されし後、わしは天佑とか神助とかいふことは必ずあるものだと信ずる、然しそれは正義あつての天佑であります、又至誠あつて後の神助であると、力強き御言葉を以て證明せられたのであります。が森嚴なる神氣に接し且自ら清淨せらるくも明治天皇の御製で又「天は正義に與し、神は至誠に感ず」といふ語は實に萬世不易の一大眞理、彼の東郷元帥が往年日本

の富強安泰を祈らせ給ふた。之とともに秋の牧穫時、先づこの國土の稻の初穂を天祖に獻つて、報本反始の恂を致され、なほも國土國民の富強安泰を祈らせ給ふた。これが神嘗祭の起原であり又其意義である。

これは毎年十月勅使參向して奉幣の大儀を擧げらる、神宮に於て行はるゝ大祭中の大祭にて宮中に於かせられても賢所の御親祭があり、神宮御遙拜を行はせらる。實に又國民的大祭日なのであるから國旗を掲揚參籠ひたすら信心を籠めて一宗を開かれたることは史實に證明

せられたのであります。が神嘗祭の起原であり又其意義である。

御參拜を行はせらる。實に又國民的大祭日なのであるから國旗を掲揚舉國一致奉祝遙拜せねばならぬ。左にその日時を記す。

神嘗祭は全國民の大祭であるその起源と由來
天照大御神が高天原に於て衣食の祖神なる豊受大神より五穀の種子を得給ひ、「此の五穀は天下萬民の生活に缺くべからざるもの」と仰せられ、豊葦原瑞穗國と國の名を負ふばかりに農業立國を大本とし、歷代の天皇は、天祖の御神慮を奉體して、勸農を以て天皇政治の根本義とし國民生活の向上繁榮を圖らせ給ふた。之とともに秋の牧穫時、先づこの國土の稻の初穂を天祖に獻つて、報本反始の恂を致され、なほも國土國民の富強安泰を祈らせ給ふた。これが神嘗祭の起原であり又其意義である。

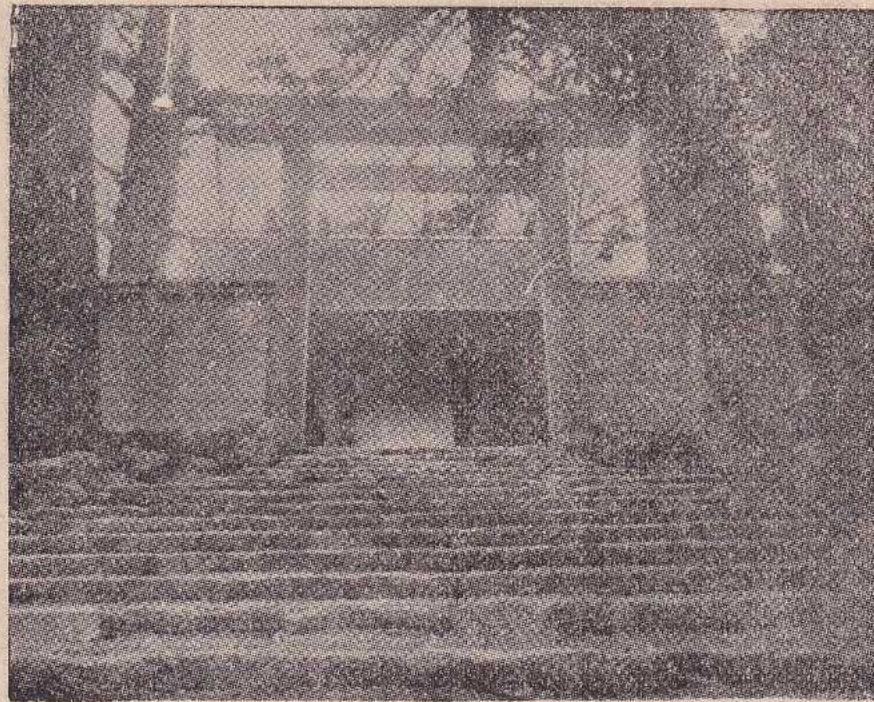
これは毎年十月勅使參向して奉幣の大儀を擧げらる、神宮に於て行はるゝ大祭中の大祭にて宮中に於かせられても賢所の御親祭があり、神宮御遙拜を行はせらる。實に又國民の大祭日なのであるから國旗を掲揚舉國一致奉祝遙拜せねばならぬ。左にその日時を記す。

神嘗祭は正に神宮に於ける「お正月」とも申すべきで、物皆總て新たにすがくしく改まるのであるだから神宮祭主（現任久邇宮多嘉王殿下）を始め、大宮司・小宮司（勅任）禰宜十員（委任）。權禰宜廿員・宮掌四十員（判任）にて奉仕、何れも一日又は二日齋館に參籠して心身の潔齋をなし、神宮御鎮座以來二千年傳承の行事によつて祭典が執行される。

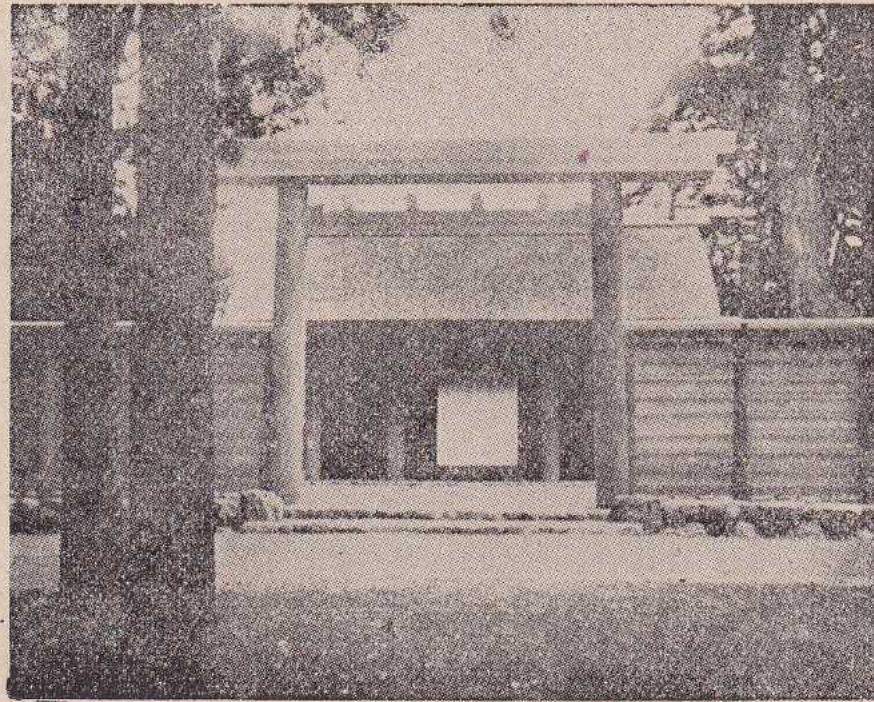
御參宮のすゝめ一生に一度はお伊勢様へ

日本國民として誰でも胸に抱かるゝ希望で御座ぬます。

「信あれば徳あり」と言ふ通り、お參りをすればする程應報のある事は參拜者の皆常に稱へられまするが、まことに一度び崇嚴なる神域に進み大廣前に額づく時何處に芥子粒ほどの邪念も在りませうや「何事のおはしますかは知らねども忝なさに涙こぼるゝ」の靈感は神慮と吾が真心とピツタリ合致する所以であります。此合致はやがて忠君となり、愛國と成り、一家圓満となり、各事業成功となり、商賣繁昌となり農蠶豐饒と成り、海に於て大勝を博されし後、わしは天佑とか神助とかいふことは必ずあるものだと信ずる、然しそれは正義あつての天佑であります、又至誠あつて後の神助であると、力強き御言葉を以て證明せられたのであります。が森嚴なる神氣に接し且自ら清淨せらるくも明治天皇の御製で又「天は正義に與し、神は至誠に感ず」といふ語は實に萬世不易の一大眞理、彼の東郷元帥が往年日本



(宮内) 宮神大皇
所拜般一 内門御南垣板殿正



(宮外) 宮神大受 豊
所拜般一 内門御南垣板殿正

伊勢參宮の栄

緒言

古來、神宮に參拜することを「伊勢參宮」と稱して、國民一般にこのお伊勢參りを一生一度の念願となし、遠路はるゝ飛び立つ思ひに欣々然として神都に辿り着き、親しく大神宮を拜して報賽の眞ごゝろをさゝげ奉ることを我身の本分とし、又無上の幸福としたものである。

これは我々お互ひの祖先から傳へ來つた大和民族獨特の國民思想の精華であり、同時に世界何れの國にも未だ其比を見ない實に尊き美風である。

謂はゆる神國日本の名稱に反かざると共に、又帝國日本の隆々として、あだかも旭日の昇るが如き勢にあるは決して偶然ではないのである。

内宮、外宮

神宮とは皇大神宮、豊受大神宮の御總稱にして、皇大神宮は内宮又は五十鈴の宮、豊受大神宮は外宮又度會の宮とも申し奉る。世俗では伊勢神宮と申し奉るも、唯一絶對最高の尊き大宮

として單に「一神宮」とのみ申し上げるのが正しいのである。

天照皇大神は我が皇室及び國民の總御祖先に坐まし、豊受大神は國民生活の最要素たる百穀發生、後世產業の基を開き給ひし御祖神で、天照皇大神の御敬慕最も深く「吾れを祀る前に先づ、豊受大神を祀れ」と特に神勅を下された其御神慮に依つて雄略天皇の大御代に丹波の國より現在の大宮地に迎へ御祀り遊ばされし尊き御神様であらせられる。

皇大神宮（内宮）が宇治の五十鈴の川上、神路山の麓に御鎮座あらせられたのは、第十一代垂仁天皇の御時代で今から千九百三十七年前。豊受大神宮（外宮）は右に後ること四百八十年、御鎮座後千四百五十六年の長歲月を閱みする。

◆ 御由緒

上古天孫瓊々杵尊御降臨の際、皇大神の神勅により兩大神の御神体を宮中に奉祀せられ、歷代の天皇亦皇居内に奉齋せられたが、第十代崇神天皇には、大神と御同殿を恐懼遊ばされて先づ兩大神の御神体を倭笠縫邑なる新御造營別殿に奉安せられ其後皇大神を丹波國吉佐宮に御奉遷相成り、更に垂仁天皇第二皇女倭姫^{やまとひめのかこと}命の御奉仕により現今の大宮地に永久の御鎮座を拜し奉るに至つたのである。尋で曩に丹波の國比治の眞名井原に御祀り申上た、豊受大神を、天照皇大神の御教により此山田原に御奉遷申上げられたのである。

茲に兩大宮の尊き御神格を仰ぎ、又上古以來我が皇室御歴代

の御尊崇が如何に篤くあらせらるゝかを窺ひ奉れば、皆一様に後昆枝葉末裔の流れを汲む、帝國臣民たりとの誇りを感じざる者はあるまい。

實に畏くも又有難い次第と申さねばならぬ。

◆宮殿の御構造

宮殿の御様式は神明造りと申して、總檜白木造りの清々しく崇高を極め、兩大宮はゞ同一であるが、たゞ異なる點は御屋根上部兩端の千木の先端が、内宮は平たく、外宮は垂直に削取つてあり、又勝男木が内宮は正殿十本、御門六本、別宮六本であるが、外宮は正殿が九本、御門五本、別宮五本となつて居る事である。

◆別宮

別宮とは本宮に對して申上げる御稱號で、皇大神宮（内宮）には十宮（内二宮は本宮々域内）、豊受大神宮（外宮）には四宮（内三宮は本宮々域内）あり、就中内宮の荒祭宮は天照皇大神の荒御魂あらまつりのみやを、又外宮の多賀宮は豊受大神の荒御魂あらまつりのみやを御祀り申し上げ特に重んぜられて本宮と同一に祭典を行はれ、勅使も参向せられるのである。一般參宮者には是非尊崇參拜せられんことを勸奨する。

荒 祭 宮 (内宮域内)

伊佐奈岐宮 (度會郡四郷村)

風日祈宮

伊佐奈彌宮 (全 村)

倭姬宮

瀧原宮 (全 濑原村)

月讀宮

瀧原並宮 (全 村)

月讀荒御魂宮

伊雜宮 (志摩郡磯部村)

豐受大神宮 (外宮) 別宮四ヶ所

多賀宮 (外宮域内)

風のみ宮 (外宮域内)

土つちのみ宮

月夜見宮 (宇治山田市宮後町)

式年御遷宮

兩宮及び總ての別宮は、満二十年毎に全部新らしく御造り替へ相成る御制度である。上古は神殿の破損した時に宮司が臨機修補することになつて居たが、第四十代天武天皇の御恩召に依り二十年に一度の御遷宮制が創定せられ、其後兵亂の爲め假殿御遷宮のみで右の實現を見るに至らなかつたが、此制度に基く第一回の式年御遷宮は持統天皇の御代に初めて行はれ、爾來連續して御執行（中世式微時代數回略式の假御遷宮はあつたが）、明治に入つては同二年、二十二年、四十二年と都合三回、超えて昭和四年十月には第五十八回に當る遷宮が行はれた。神宮御式典中最も嚴肅崇高にして神代を偲ぶ神聖古雅の色彩豊かな、最も重きが上にも重い御儀式で、古來民間では御遷宮の翌年を御蔭年の御蔭參りと稱して全國各地方から參宮者が平年に幾層

倍するの大盛況を呈する。

■ 晓の参拜

神宮参拜は早朝が最もよい。澄みわたる大氣の清らかさ、森閑とした宮域内の神々しく氣高い中で、心靜かに大廣前に額き拜禮するその時の心のときめき、はツと強い靈感に打たれて、何とは知らず忝けなさに胸が一杯になる。定めし大神にも別けて一しほの御感應と拜察申上げられるのである。

故に伊勢山田へ到着の其夜は宮の中に参籠の氣分で静臥安眠し、翌朝早起一風呂浴びて身を清め、朝の大自然の清々しい間に参拜相成ることこそ、其瑞わざたき参拜意義を尙より以上に深めて益々瑞わざたい次第と思ふ。

この一項は参宮の旅に上らるゝ方々へ、豫め其行程を立てられる折の御考慮に資し度く、特に附記する所以である。

■ 参宮順序

恒例の神宮諸祭典行事は、豊受大神宮（外宮）を先に、次で皇大神宮（内宮）に執り行はせられ、又上皇室の御奉拜を始め、下々一般の参拜も、先づ外宮、それから内宮の順序となつて居る。

抑もこれは如何なる理由によるか、即ち天照大神の御神勅
 「吾一神のみにては朝夕供ふる神饌も安らげく享け得ぬ。急ぎ
 豊受大神の御神靈を吾の大宮近くへ遷し参らせ、吾が祭をなす
 前に先づ豊受大神を祭れ」との御聖旨により遂に右の御慣例となつたのである。

■ 一般參拜者の心得

神宮々域内では、昔も今も厳しく不淨を忌ませられる。故に謹みて不淨の事なき様互ひに注意を要する。古來勅使參向の節は先づ宮川原で禊齋を行はるゝ慣例で、又一般の參宮者も先づ第一に神職から修祓を受け、或は宮川で水垢離を取るなど、競ふて清淨禊齋に努めた事は、皆何れも、敬神思念の篤きを表現した一幅の社會的美展景であつた。

宮域内に於て參宮者の慎むべき行爲

- ◎不淨絶對嚴禁に付參入前に特に用便注意の事
- イ、敬意の缺ける扮裝をなさざる事
- ロ、禁煙（神樂殿待合所に限り特に許さる）
- ハ、紙、塵を捨てず、又痰唾を吐かざる事
- ニ、高聲、吹笛等を慎み其他靜肅を素す行爲なき事
- ホ、寫眞器を携帶、宮域内の撮影は嚴禁
- 但し神苑地内の撮影は神宮警衛部に申出でて許可を得たるものに限り差支なし
- 拜所に於ては特に左の條々を禁す

イ、帽子、外套、襟巻等を着装すること

ロ、手荷物又は他人に妨碍を及ぼす虞れある物品を携帶すること

正式参拜希望の有資格者は當日直接兩宮板垣御門内南宿衛屋へ申出らるれば身分署名の上外玉垣内の中重に於て、資格相應の位置に参進の上参拜する事を許される様になつてゐます。
(服装の規定あり)

どなた様へも四時不斷の禊齋御料

『むく鹽草』謹呈

神宮参拜の節は誰でも先づ手洗所で、口すゝぎ、手を清めて参進するのであるが、さて拜所に着き、大御前に額く時又は御神樂奉奏昇殿に長い参道、みちすがら其淨めが保たれて居ないのを何とする方法もなく、甚だ恐れ多いと思ふ事が往々あります。

其の場合古來神宮と御縁故深きお淨めの「むく鹽草」の用意があれば、即座に淨め直しが出来て不敬の思ひをせずに拜禮が行へます。弊館では自他の爲めに右の「むく鹽草」を常備して居ります故、御遠慮なく御申聞け下さい御一行皆々様へ洩れなく謹呈致します。

神樂奉奏

國民の奉賽に關する事務は神宮神部署の所管である。

神樂奉奏、御饌奉奠^{みけ}、金品の獻納、大麻^{おほぬさ}、曆の拜受等は兩宮とも神樂殿へ御住所、氏名、御神樂の種別、料金を記して御届けになれば到着順に御取扱になります。

神樂奉奏、御饌奉奠時間は毎日午前八時より午後四時迄(十一月一日より三月末日迄は午前九時より)、願人の到着順により行はれる。

▼神樂其他御初穗料

種 別 御初穗料 昇殿人員

特別大々御神樂 七拾五圓以上 五百人

神樂奉奏者ニ對シテハ各一座ニ付万慶祓一休授與セラル別ニ御希望ノ方ハ左ノ料金ヲ納メ

別大々御神樂 五拾圓全 三百人

ラルベシ

大々御神樂 參拾圓全 二百人

▼大々御神樂 壱圓

大御神樂 拾五圓全 一百人

▼大御神樂 五拾錢

御神樂 七圓全 五十人

▼御神樂 參拾錢

御饌奉奠 大みけ貳圓 各自昇殿所願

▼御神樂奉奏 祈念御祓授與 五錢

大麻授與所 劍祓、守祓の二種 御初穗料各五錢

交通機關

國有鐵道は東京、長野方面より名古屋を經由し又北陸線京都方面よりは草津線、つげ線を經由、大阪、奈良方面より何れも(關西線龜山線より分岐し參宮線終點鳥羽に至る)の山田驛に着發する外左記の三電鐵がある。

伊勢電鐵

は美濃大垣から桑名、四日市を貢き、津、松坂を経て直通電車を神都山田に乗入れて居る。山田の終點大神宮前驛は豊受大神宮（外宮）の直ぐ近くで、驛前には高千穂館本店に着く。又この電車は目其處から少し進めば北御門前の高千穂館本店に着く。又この電車は目下工事中の名古屋、桑名間の新線路竣工、愈々これが實現の曉は愛知諸地方との交通上一層便利を増すであらうと人々期待されて居る。

參宮急行電鐵

大阪、山田間を連絡して居る電車で、山田市内は外宮前、山田驛（省線山田驛内）、終點宇治山田驛の三驛がある。この電車を利用する參宮旅客は終點驛迄行かずに山田驛で下車した方が外宮へ僅か二丁半、而かも正しい參宮順路に當るから人々便利である。

合同電車

山田驛前から外宮前、御幸通を経て内宮に到るものと、外宮前より直行して二見浦に通するもの、又内宮前から二見浦に直行するものとがあり、外に右内宮行電車途中楠部停留所から分岐する朝熊行支線（山麓平岩驛迄は平坦線で、同驛からはケーブル線で東洋一の急勾配を上り朝熊岳山上驛に達する）がある。

此外市内交通機關としては、乗合バス、均一タクシー、馬車、人力車等がある。

市内乗物賃金

▼電車

區

間

哩數

時間

片道

往復

山田—内宮前 二、二 二〇分

一八錢 三六錢

山田—二見 五、一 三二分

一六錢 三二錢

内宮前—二見 五、九 三五分

二四錢 四八錢

山田—内宮前—二見

四〇錢

山田一二見—内宮前

三七錢

右全線一週 (山田外宮内宮二見山田) 五〇錢

楠部—朝熊岳

三、三哩 三分

内宮前—朝熊岳

三四錢

往復一二見

六四錢

山田—内宮前

八五錢

朝熊岳往復一二見

一圓

多人數團體、學生修學旅行團體特別割引は前以て御通知あれば
高千穂館に於て御便宜に御世話致し御都合上前宿泊地迄切符送
附も致します。

▼自動車

乗

合

外宮前—内宮前 片道二十錢

朝熊岳驛—本堂前 全二十錢

タクシー

山田驛又は

外宮前—内宮前

一圓

▼馬車

外宮前から舊街道古市を通つて内宮前に到る。

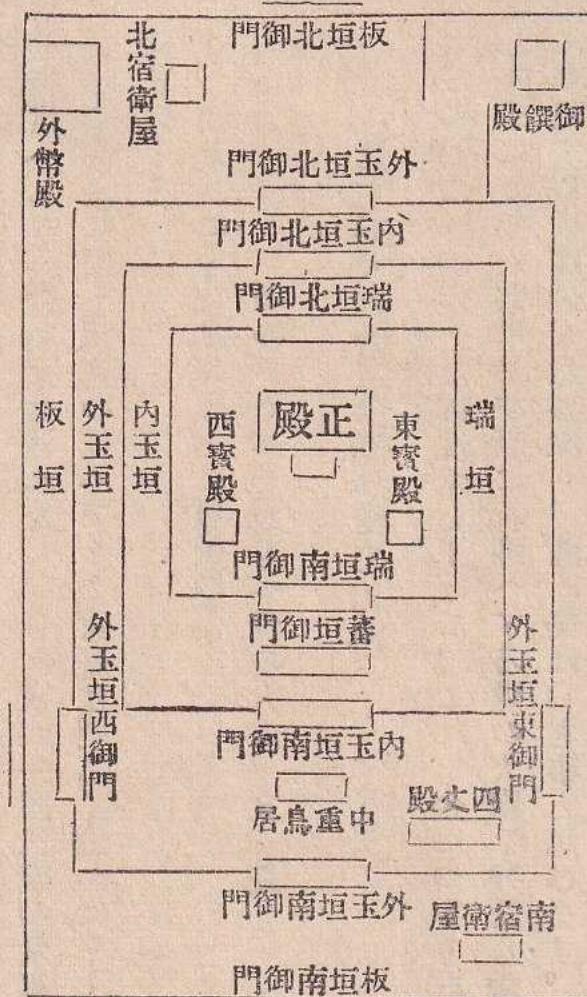
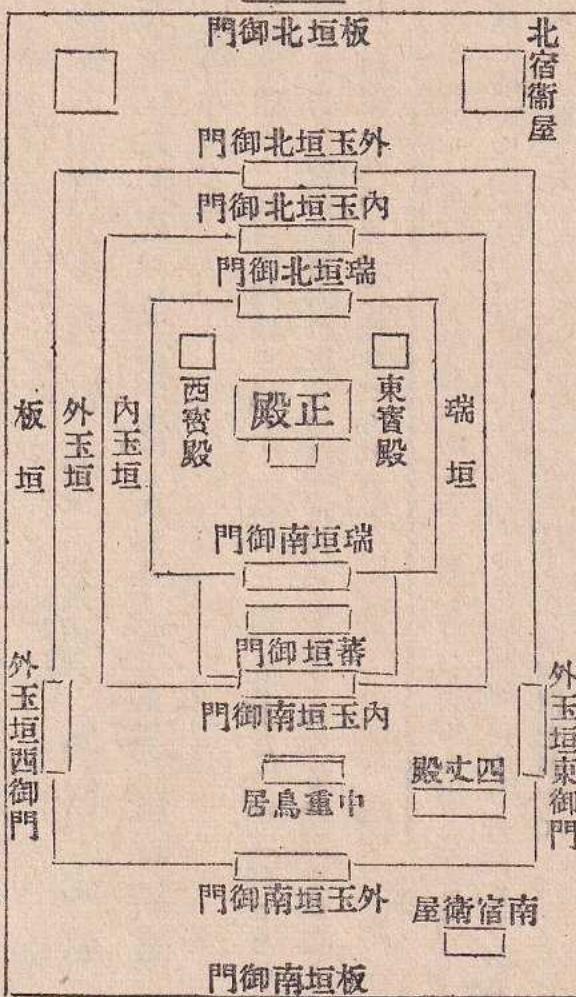
外宮前より古市二十一錢、中之町二十六錢、宇治橋三十六錢。

▼人力車

山田驛より外宮前十五錢、外宮を経て宇治橋六十四錢、古市三十一錢、
徵古館二十九錢、外宮—内宮往復一圓十五錢、外宮—徵古館—内宮往復
一圓廿九錢。

內宮御垣略圖

外宮御垣略圖



伊勢御參宮には

豊受大神宮、多賀宮(豊受大神荒御魂) 風宮、土宮
天照皇大神宮、荒祭宮(天照皇大神荒御魂) 風日祈宮

御本宮拜禮の上

表記略圖の大宮内御模様を親しく奉拜して後、各別宮へ御巡拜せられ
瑞たき折角の御參宮なれば宮中にてはゆつくりと凡ゆる教訓を体得し
且つ印象を深め永遠に記念せられたし

○ 豊受大神宮(外宮)は天照皇大神「吾一神にては御心もおだやかならず
朝夕の大御饌も安らげく享けられぬ」この御神勅により丹波よりお迎
へせし最も尊い大宮であります。されば此御神慮を畏みて

○ 天照皇大神宮大麻と 拝受し各家の神棚に奉祀せられ毎朝御洗
○ 豊受大神宮大麻を 米を御供へして拜禮祈念せられたし、日々家族一同三度の食事
を楽しく愉快に頂く報謝の眞心で……家庭は明るく朗かに……
子孫繁榮……

朝よひにもの食ふごとに豊受の

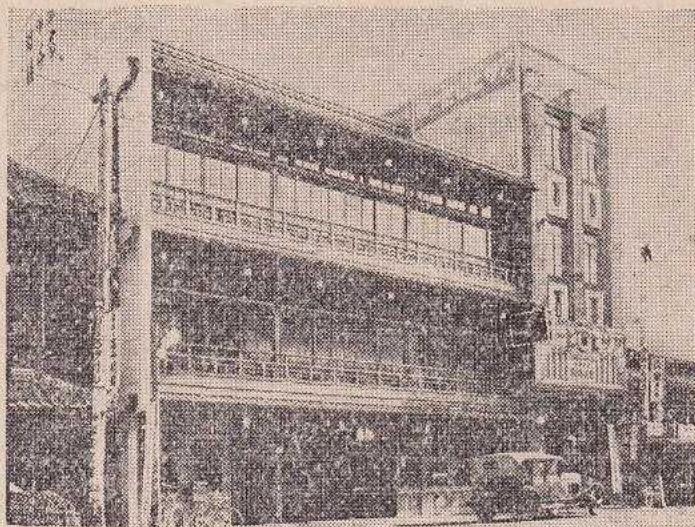
神のめぐみをおもへ世人の人 宣長

毎年末大神宮大麻拜受の心掛

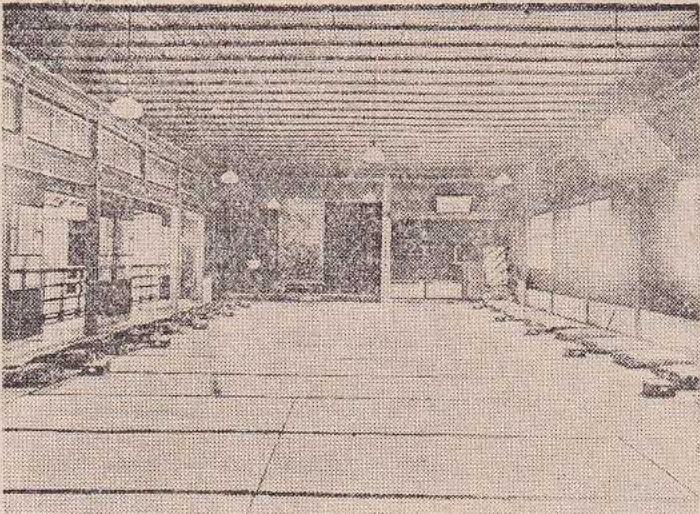
各家の神棚に毎朝供へた御洗米を下げる、これを金につもり貯
蓄し年末に新年と共に必ず新にお迎へする處の大麻を拜受し神
棚に奉祀する事は最も意義深く、清く美はしき事と思ひます。

高千穂館

高千穂館外觀



- ◎省線山田驛前左側二軒目參宮順路
好地點を占め 早朝清め湯あり
- ◎和洋大小七十室七百疊、見晴よい
閑靜な奥三階、控へ間付高等室
- ◎大團体様の御宿泊に適し男女別浴
四ヶ所設備万端行届けること
- ◎夙に天下の御公認御引立御下命を
辱ふし衷心感謝の外これなく
- ◎其毎々の恩命に答ふる爲家族一同
協力一致一層誠意御迎接に努め
- ◎皆様の伊勢のお宿として屹度使命
を盡す存念であります



四

近來廣間の御希望多く弊館の一百疊
七十疊、五十疊の各室を御利用
一、瑞たい參宮の縁起と一同打覽さ
寝起き食事も一室同席忍從融合

の徳を備へて大家庭が成立して

御互に旅情を慰め、親睦を厚くし、

伊勢なればこそ得らるゝよい記念だ

と御好評を頂きますので、今後は尙

汎く多數各位様の御需用に供し誠意

奉仕と共に一層御満足を願ふ考です

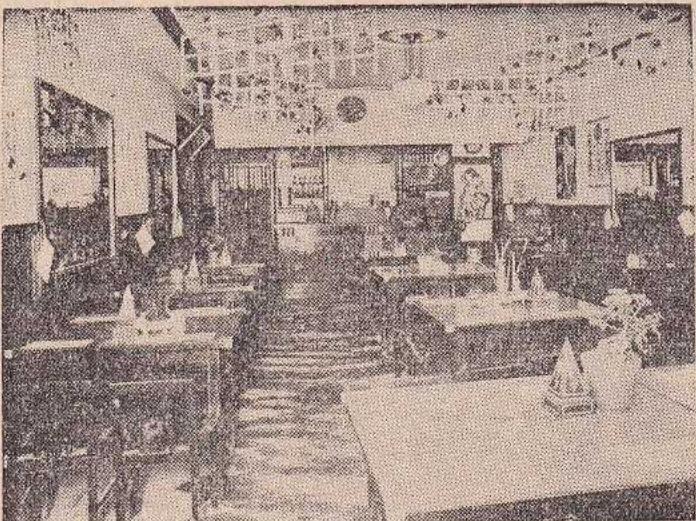
(右廣間御希望あれば御前報希ふ)

高千穂大衆食堂

は

高千穂館本店

天下一の光榮に浴する



- ・山田驛スグ前左側四階洋館建の一階
- ・和洋一品料理、折詰御辨當お好次第
- ・洋食二十錢均一和食定食五品五十錢
- ・チップ不要でマジメな食堂と御高評
- ・午前五時より朝風呂終日御入浴隨意
- ・早朝御着の御方、夕方御出發の方々
- ・座敷で手軽な御食事膳部で差上ます
- ・又汽車中へ御辨當、茶、御手荷物等
- ・迅速に積み入れ懇篤御世話申上ます
- ・ワインド現品御覽、ぜひ御用命希ふ

大日本國民精神の淵源地、世界無比、
至尊至高的神宮御鎮座の大神都
外宮北御門前、先づ御安着スグ御禮
参り、……入浴、食事後店頭に出で
て眼前に、高欄、擬寶珠附御橋、一
の鳥居の奥深く幽かに見ゆる、御神
燈の神々しさに何とはなく呼び招か
る、心地して自然と大宮内へ進み入
り夜陰の一層静けき大御前に額き一
心至誠の御祈念……全く宮城内の參
籠に均しき氣分満喫、眞に四邊閑靜
(汽車、電車、雜音はなく)ゆつくり
と旅行の慰めが出来、曉告ぐる神鷦
の聲に目ざめて起床し參道の兩側千
古斧鉄を入れざる大靈杉、朝の濁な
き大氣自ら身に沁みて心身諸共に潔
められる、畏くも尊受大神の大御前に
御神恩を謝し更生一意將來の方針
に至誠を捧げて祈念し奉る。

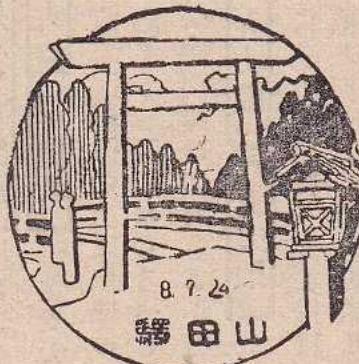
斯の如く何時、何度でも、御參拜が
御自由に出来、又汽車、電車の御乗
降は、徒步五分で且つ、神都の中心
繁華街の夜景見物には三四町の間に
ありて至極便利で日常御好評を頂
き多々御用命を蒙り喜んで居ります
◎此度外觀、内容設備増改築中(九
月末完成)御期待に添ふべく努力
勉強仕候間不相變賑々敷御尊來希
上候

高千穂食堂

業務主任 次男 杉木 寛一

參宮順路案内

山田驛



パンタス記念驛田山

こゝは神都の大玄關、汽車で來る參宮旅客は此驛に降り先づ伊勢の地へ無事着いたゞホット一息する。また參宮急行電鐵の旅客も此山田驛で下車すれば參宮の道順がよい（一つ先きの終点宇治山田驛からは外宮參拜に遠く、且つ後戻りせねばならぬ）すぐ正面が、外宮で、まつすぐ通じてゐる電車通りには大旅館土產物店が軒を並べ、左側の三階四階和洋兩館が高千穂・穂館と高千穂食堂でございます。高千穂には朝の五時より清めの御風呂を設けてお待ち申上げて居りますれば、こゝにて旅のお疲れを休め旅塵を拂ひ、心身を清淨に洗はれますことは最も御便宜でござります。御徒步・電車・乗合バス等皆こゝを始發点と致しますから、お荷物もお預けになり、万事安心してお相談下さいませ。

高千穂館前を外宮の方へ數十歩左側。

商品陳列所

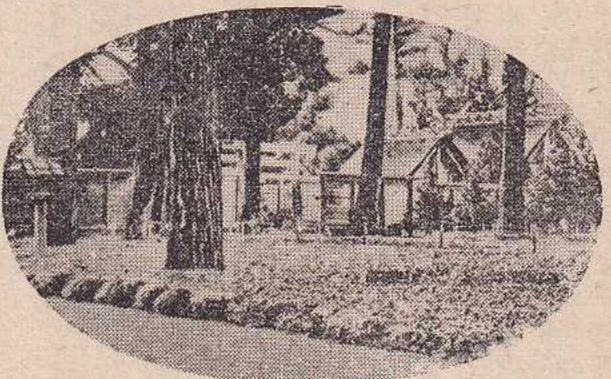
尙前方約二丁左側角、記念スタンプがあります。

外宮神苑入口

千古斧鉄の入らざる高倉山の麓、一草一木すべて清淨、美しく敷詰めた玉砂利を踏んで進むと右側に衛士の表見張所あり、左側には下馬札が立つてゐて一般參宮者は乗物を捨て標旗はここで捲きおさめねばなりません。尙同所では特に學生徒並に一般團体の參拜を記錄されますから、前以て學校、又は團体名、所在地、人員引率代表氏名等を記し用意して置かれるこよい、内宮も同様）

御參拜の心得

- (一)一心身を淨め服装を正すこと
- (二)煙草、高聲を慎むこと
- (三)神苑で寫眞を撮る方は衛士に申出で許可を受くる事、



宮

外

- 宮城は撮影できません。四便所は入口の衛士見張所の裏手にあります、参入前特に御注意用便せらるべし。五学校其他の團体で宮中の説明講演又は神宮諸祭儀等に關する活動寫眞映寫を望まれる際は前もつて高千穂館主人まで御申越下さい。神宮當局へお取次ぎ申します。
- 第一鳥居口御橋** これを渡れば神域となり表参道であります。
- 手洗場** 参道左側にあり、清泉湧き出て參拜者の口すゝぎ、手の清洗に備へてあります。
- 清盛楠** 御手洗場向ひにあり有名な大木です。
- 第一の鳥居** 高さ一丈八尺三寸、神宮獨特の神明造であります。
- 行在所** と **外宮齋館** 第一の鳥居参入右側にあり、行在所は天皇御親謁の際の御用、齋館は神宮奉仕の人々が參籠齋戒を行ふ所。
- 第二の鳥居** 皇族正式參拜御下乗の所。
- 外宮神樂殿** 第二の鳥居より参進右側神樂奉奏御饌奉斎所。
- 大麻授與所** 豊受大神宮御祓大麻壹体五錢豫め其數と料金を用意し（團体の方は取纏め一度に混雜せぬよふ）拜受せらるべし。
- 御間違ひのなきよふ特に御注意
- 九丈殿** **五丈殿** 大麻授與所に隣れる建物、九丈殿は御祭典の時、攝社末社に御饌ヨウサを供へ五丈殿は諸祭典の饗膳及平時の兩儀の祭典の修祓場。
- 古殿地** 右側一段高き平地、二十一年目、御遷宮ごとに御敷地を交互に御使用になるため舊御正殿跡。
- 外宮豐受大神宮御正殿** 畏くも豊受大神を齋き祀る大宮。參拜に當り、

ては板垣南御門前石崖上に帽子外套等を脱ぎ置き、一拜して門内大御前に参進二回拜禮の上二拍手、更に一拜して退くこと。それより左外御垣前から御正殿を親しく拜す。正式参拜有資格者は右手の宿衛屋に届出で署名の上神官の案内を受け御門内に参進御参拜ができます。

御庭内雙生二本の若杉枝を交へ葉を重ね共存共榮自然の融合美を拜觀御饌殿

正宮板垣内北東隅にある神明造井樓組の御建物、この御殿に於て常に皇大神宮・豊受大神宮・相殿神各別宮に朝夕の大御饌を奉り、皇室・國家・國民の隆昌安泰をお祈りして居られます。

多賀宮 本宮御参拜後、前の池に添ふて右へ正面の石段を昇る、豊受大神の荒御魂を齋き奉る最も大切な外宮第一の御別宮
土 宮 多賀宮より石段を下り左方、大土乃御祖神おほつちのねそじんを祭り奉る。
風 宮 多賀宮より石段を下り右方、級長津彦命しづつひこのみこと、級長戸邊命しなと(のみこと)を祭り奉る。

忌火屋殿

御酒殿

多賀宮、土宮、風宮、の御参拜をすまして直前へ延びた一條の路即ち裏參道俗に北御門きたみかど通の左側にあり、前者は日毎朝夕並に諸祭典の大御饌おほみづけを調理し奉る所、後者は御神酒の神を祀つてある所であります。(御本宮の御裏にあり)

北御門

裏參道小橋を渡り出た所で、昔は宮川に禊齋して、すべてこの御門より参進し非常な賑ひを呈しました。その前面街角に高千穂本店(北村屋)がございます。其處から左りへ行けば直ぐ近く伊勢電鐵の「大神宮前驛」があり、又其處には高千穂館案内所があります。

月夜見宮

高千穂本店横をまつすぐ北に進むこと約二丁、月夜見驛前高千穂館に戻ります。

正しい順序

として外宮御参拜が済みましてから、内宮と相成るわけでございますが、電車、乗合自動車共に始發点たる山田驛前よりお乗りになれば、混雜もなく、ゆるやかに座席を占められます

御幸通

電車は外宮前山田郵便局の角を左へ内宮へ向ひますが、この兩側に

街路樹の整然と茂る通りが、有名な御幸通り、左側には市役所、公會堂、圖書館右側には裁判所、銀行、警察署等がある歴史館。公會堂に隣接し、日本歴史著名の事蹟をパノラマ式に展出する。

徵古館**農業館**

電車倉田山停留

所より約二丁、徵古館には神宮寶物、上古以來の遺物、服裝、器具、書畫を農業館には農林、水產、牧畜、工藝の器具標本を陳列す。

倭姫宮

皇大神宮別宮倉田山に御鎮座垂仁天皇第一の皇后にして皇大神の神慮

を畏み伊勢に大宮地を定められ終生齋宮の女御として大神に奉仕せられたる倭姫命をお祀りしてあります。

神宮皇學館

御幸通りを

隔てゝ徵古館の裏手にあり、皇學館は皇國の道義を修得せしむる専問學校、文庫は神宮に關する古書珍書の圖書館。

楠部停留所

朝熊山登山電車乗換驛

月讀宮

楠部の次驛中村停留所下車、内宮別宮の一つで月讀命

(天照皇大神の御弟神)を奉齋し、尙並んで伊佐奈岐宮、伊佐奈彌宮をお祀りしております。

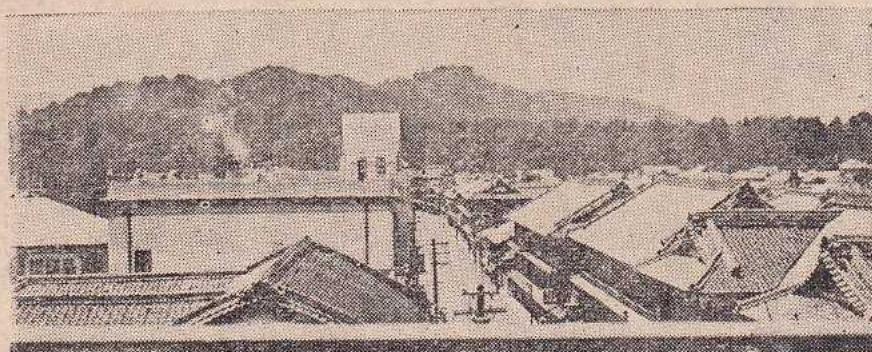
伊勢離宮御造營地

月讀宮と御幸通りを隔てた丘上にあります。

猿田彦神社

宇治浦田町停留所前半丁の所にあり。地祭り方除け

の神として信拜者が絶えません。



山倉高りよ台望展館穂千高前驛田山
む眺を

如雪園

浦田町停留所附近右側丘上にあり、大阪市の特志家帶谷傳三郎氏の公開私苑、苑内に園体休憩所、湯茶接待所があります。

宇治橋公園

神苑内休憩所

前者は電車内宮終点前の山上、後者は宇治橋前神苑地内に在り。各五百人を容る、無料休憩所。

宇治大橋

電車内宮終点前、五十鈴川の清流に架せられた擬寶珠付高欄五十一間の長い木橋。

内宮宮域

宇治橋を渡つたところ、塵一本留めぬ参道坦々として續き、氣高き神路山、群れ遊ぶ白鶲、さくさく踏む玉砂利の響に、心は神代の昔にかへるのであります。

手洗場

衛士見張所を右に、小橋（火除橋）を渡つた右側にあり。

瀧祭宮

水神（彌都波能賣神）五十鈴川手洗場の左丘上にあり。

第一の鳥居

手洗場より参道數歩のところにあります。

行在所

内宮齋館 第一の鳥居左側にあります。（外宮と同様）

五十鈴川手洗場

第一の鳥居をく

ぐつて數歩右方へ下り行けば五十鈴川の清き流れの手洗場。

神樂殿

大麻授與所

第二の鳥

居を過ぎた所にあり、外宮と同様神樂奉奏申込を取扱ひ、又大麻、曆を授與する所です。

内宮大照皇大神宮御正殿

天照皇大神を齋き祀る大宮地。

荒祭宮

正殿御背後にあり、皇大

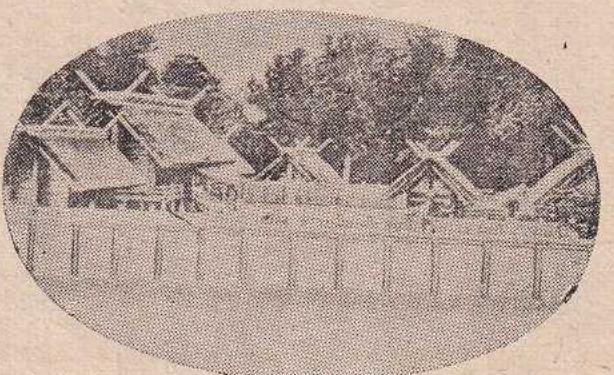
神宮第一の別宮にして、皇大神の荒御魂を齋き祀る御宮であります。

忌火屋殿

御酒殿

荒祭宮より

神樂殿の方へ引返す右側にあります。



宮 内

風日祈宮

大麻授與所の前を眞直に進みて御橋を渡つて右に御鎮座祭神は、外宮の風宮と同一で、蒙古の大軍攻寄せ來た時異國降伏の祈りを捧げて神風を仰いだといふのは、この御宮でございます。

神宮司廳

神域を辭して宇治橋を渡り舊国道を歩むこと二丁餘りにして右側、神宮司廳は神宮萬般の事務を取扱ひ神宮神部署は國民の奉賽に關する凡ての事務及び大麻、暦の頒布等を取り扱ふ所でござります。

朝熊山

内宮よりの御歸路楠部驛にて登山線に御乗換になれば約十數分で東洋第一のケーブル電車山上驛に達します。

二見が浦 内宮前より二見行電車で約三十分、終点下車約十丁にして興玉神社及び海中に夫婦岩あり、「日の出」は七八月中の快晴の日には海上水天の間に拜される。二見より山田驛前へはお歸りの電車、汽車至極便利でございます。

鳥羽港

省線二見驛より約十分。一名小松島の稱あり風景絶佳。

各観覽物案内

- 徴古館 一人十錢 小人半額
観覽料 三百人以上の團体は超過人員に對し一人五錢
- 農業館 職員の引率する中、小學校生徒は三錢
- 歴史館 入場料 一人十錢
團体 五錢

伊勢音頭觀覽料

一回五十人限（御希望に應じ何時にも）一回五圓

山田、宇治間の舊參宮街道古市の備前屋と杉本樓で今尙むかしの通りに古典味の色彩に富んだ派手な舞台でこの伊勢音頭を演じて居る。

神宮（神社）参拜の意義

神宮（神社）参拜は、生命の更新が目的である。生命の更新は神と人との合一からであり、神人合一せんには「鎮魂」が必要である。鎮魂の妙境（言葉にも筆にも現はせぬ嬉しく尊い心持）に入らうと思ふには、穢なき状態からである、故に身心の穢は是非祓はねばならぬ。

穢を祓ふには、吉祓ひと悪祓ひの一通りがある。吉祓ひとは善い事を進んでやる事であり、悪祓ひとは悪い事をせぬ様する事である。これが祓ひの生活化であり生活に祓ひが是非必要な所以である、神人合一への道順である。

即ち修祓を経て鎮魂が行はれ神人合一して生命が更新される生命が更新されて始めて人生の尊い使命の遂行が完全に出来るのである。

穢とは各自使命の完全遂行の妨となる事柄を言ふのであつてこれには意識的のものと無意識的のものとがある。

意識的の穢は、自己の反省と強い意志の力とに依つて段々祓はれて行くが、知らずぐの裡に受けた、即ち無意識的に受けた、我身の穢を祓ふには是非共神の助を仰がねばならぬ。

無意識的の穢は人の心の裡に、物事に對して、なつかし——尊し——有難し——の心が缺けて、恨み・憎み・悲し・腹立ち妬みの心が現れて物事に對し、敬・愛・公平の心が無くなり不平不満が湧き起り知らずくの間に自ら穢に近づいて、災難不幸を受ける事になるのである。

又穢は傳染り易く、避け難い、それがために深く神助を仰がねばならぬのである。

神前に坐し、神の御心を仰ぎ、神の御力を乞ひ祈り、神靈に接し神の威徳を讚へ、神助を確信して、始めて生命が更新される。然して使命遂行に邁進する。かゝる姿が廣い意味の神人合一であり神と共に働く喜びである（名人作業中の妙境、即ち神技）人類永遠の發展の道もこゝから開けて來るのである。

斯くして「使命（命）」「仕事」「神樂」（使命即仕事のために喜びつゝ、神と共に働く姿は神樂である）の三つが一體である事が明り、使命遂行の生活の尊さが味ははれる。

家に神棚があり、村に鎮守あり、國に大神宮がある。吾等は常に神思を感謝して更に新なる神助を願ひ、皇御國の國民たる喜びを深く感受してこそ己が使命の遂行が完了される。

昔、氏神に参り村人に送られて不完全な道中の苦難に堪へつゝもせめて一生一度の伊勢参りといふことが、國民至上無^{このうへもなくぶなつ}一の念願であつたこともうなづかれる。

現今文化の發達は如何なる遠隔地と謂ども短時日に苦もなくその目的を達し得るのである。

故に日本國民たるの自覺を明らかに認識し、益々邦家の彌榮を祈り、自己の向上を願ふ者は今日ある喜びを神宮の大神前に深謝し、倍舊の神助を乞ふは當然のことである。遊覽氣分其の儘で神域に入る不敬も判然とするであらう。

願くば、心を正し身を清め、曉天神宮の神域に入り限りなき大神の靈徳を仰ぎ奉られよ。

かくてこそ大神宮參拜の意義が完了されるのである。

無上眞道

篤信 亀田政太郎氏
" 井阪篤子氏 稿

御神樂の奉奏ご其の次第

近來小學校兒童及び中等學校生徒が卒業前に神宮を參拜し其の神恩を奉謝し將來の御加護を祈願すると同時に御神慮を慰め奉る爲めに御神樂を奉奏するもの日に月に増加し誠に國家の爲め喜ぶべき現象を示すに至りました其の御神樂の次第を簡易に申上ぐれば

御神樂奉奏は先づ願主着座次に修祓と申し願主が大御神の御前に額づき祈願を爲す時に心身を清め祓ひを神官より受け清淨の身となり次に御饌奉奠之れは願主より海、山、川、田、畑にて獲たるくさぐの御饌と御酒を御神前に供へ奉り次に神官が願主に代はりて祈願の趣旨を祝詞として大御神に捧げ給へる誠に有難き畏き御次第にて其御祝詞は小學校の生徒としては大約左の御祝意が祝詞御奏上の中に含まれて居るのである。

「吾々學生は恙なく生長學齡に達して入學し、學校にては國民として修養せねばならぬ大切の學科を校長様始め諸先生より教を受け爰に尋常小學即ち國民たるの資格を保つべき基も教育を受け目出度卒業せんとするは全く神明の御加護に據るものにて

此の御神恩を奉謝し猶卒業後、上級の學校に入り又は家事に從事する場合も今日迄の通り夜となく晝となく大神様の御庇護と御恵みとを賜はり成長の後は忠良なる國民となり君國の爲め盡くすべきを御誓ひ申上げ且つ生涯安穩に暮し得るやう神明の御加護を祈り奉る」といふので之の趣意を祝詞として御捧げになるのである去れば抑も御神樂奉奏願主は靜肅謹嚴の態度を持し神官の導きに依りはじめて登殿し此の祝詞奏上中は願主は自己の衷心より御祈願申上ぐるの心持ちにて祝詞の終るまで最敬禮を爲すべきである。

神宮映畫及講演

敬神思想鼓吹のため、神宮神部署では、參拜者の希望により無科で神宮に關する種々の映畫を公開觀覽に供し、講師がこれを解説講話されます。

場所は倉田山の農業館別館であります。希望者は徵古館觀覽の際一時間又は二時間の餘裕をつくつて置いて豫じめ右の趣を神宮神部署に申出でられるとよい。

但し高千穂館でも前以て右御申聞けあれば御便宜に御取次いたし特に御案内を申上げます。

神宮参拜一日の行程

26

省線山田驛 参急山田驛 より外宮へ	徒歩五分	神宮参拜は、外宮を先にするのが正しき順序で あり、又道順から云つても便利である。驛前よ り直進に約二丁。
(参急電車) 宇治山田驛 より外宮へ	徒歩十二分	驛前を左へ、大通(御幸通)に出で、右へ後返 りする。外宮神苑前へ出る。距離約八丁。
外宮参拜	一時間	下馬先火除橋を渡り、手洗場で穢れを祓ひ、靜 かに参道を進み、正宮に参拜し、それから別宮 多賀宮、土宮、風宮順拜、外宮大麻拜受す。
外宮前より	電車二十 分	外宮前より内宮行電車に乗り終点内宮前下車。 又外宮前より乗合自動車もある、約十五分で達 す。徒步の場合には外宮前より新国道御幸通を真 すぐに行く又舊道古市經由、里程約五十丁)
内宮参拜	一時間	内宮参拜は、御神樂奉奏は神樂殿へ申込む規定なるも、前以 て旅館へ依頼されるのが一番便利である。尙詳 細は本文神樂奉奏の記事を参照ありたい。
神樂奉奏	約一時間余 待合せ共	宇治橋を渡り、神苑を経て火除橋を渡りて千古 の清流五十鈴の川水に手を淨め口すゝぎ、心静 かに表参道を進んで正宮に参拜、別宮荒祭宮、 風日祈宮を拜して神樂殿の左側より裏参道を神 苑に出る。
猿田彦神社	十五分	電車宇治停留所下車、猿田彦神社へ御参拜徒步 五分、次の電車へ乗車御便利
月讀宮参拜	十五分	内宮前より電車約五分、月讀宮前乘降場で途中 下車、軌道左側の森の中に御鎮座あらせらる。
倭姫宮参拜	二十分	電車倉田山停留所下車、丘上に御鎮座まします。 垂仁天皇の皇后にして御生涯を大神奉仕に捧げ 給ひ、多年諸國御巡行の後此伊勢の國に現在の 大宮地を開かせ給ひし一大殊功神である。
徵古館及 農業館観覽	一時間	倭姫宮の直近く倉田山に在り、神宮司廳の所 屬にして此徵古館は神宮御寶物を始め御遷宮式所 の模型、歴史上の参考品を出陳して一般の拜觀者 に供し、農業館は農産、水産等の標本を陳列し て、參觀者の産業知識啓發に資せらる。

歴史館観覽三十分

公會堂前停 留所より山 田驛へ	電車五分	倉田山停留所から電車で終点省線汽車山田驛前へ、其下車の位置は丁度高千穂館前である。參急電車前
徒歩十二分	宮電車宇治山田驛へは公會堂前停留所下車。伊勢電鐵大神宮前へは外宮前停留所で下車、それより徒歩約三丁半。此途中高千穂館本店前を通る	

二見浦へは内宮前から二見行電車で約三十分、朝熊山へは同電車楠部停留所で、朝熊登山線に乗換へ、更に其終点からケーブル線經由、山上遊覽徒步にて往復約二時間（山上に自動車の便もある）。

又省線山田驛より二見浦驛、鳥羽驛行汽車の便あり。更に鳥羽驛乗換へ志摩電車にて賢島着、遊覽船あり。

備考

お土産品の色々

伊勢土産として名高いものは赤福餅、五穀菓子、生姜糖、神代餅、特に高尚なるは絲印煎餅、きさらぎ（干菓子）等で、此の外神路山御杉箸、貝細工、竹細工、剣物等があります。

皆様の御便宜を計り、高千穂館内に土産品部を特設し、種々豊富に取揃へ御観覽に供すると共に、忠實廉價に即賣して居ります。

特に學校生徒修學旅行團體の 神宮參拜激増最近事實に就て

毎春秋、學校生徒修學旅行團體の伊勢神宮激増、殊にこゝ一兩年此方非常時局の警鐘強打さるゝに伴ひ遽然社會各層全般に敬神思想の擡頭普及極めて顯著熾烈となり来るや各學校の緊張せる態度と其純眞敬虔の熱意とは尙ほ彌増するものありて既に各縣當局は勿論市、區、町村役所は各學校職員、父兄會と協議して參宮獎勵補助金迄も支出せられる向も有之鐵道御當局も又特別の取扱ひに臨時列車を運轉輸送し以て各學校聯合大々的に其目的を實行貫徹せられつゝあり尙仄聞する處に依れば最も旅行の閑散時期に一層此計劃を大ならしむる等聞だに誠に喜ばしく爲國家慶賀至極と存じます

或る學校生徒の神宮參拜日記冒頭に

一敬神崇祖、忠君愛國の精神に基き皇祖皇宗の高恩を謝し奉り將來發奮努力して善良有爲の臣民となる覺悟を大御神に誓ひ申す事
一地理國史等の研究を深め旅行の趣味を養ひ且共同一致規律的の精神を向上する事

近來參拜後生徒各自の記述せる感想文の美はしきもの多く職員は勿論父兄達も喜んで居られます

- 學校の校庭に神宮大麻奉安殿を設置し職員、生徒の登校、下校の際神宮遙拜を勵行せらるゝ事
- 入學當時より月々若干の參宮貯金を爲さしめ卒業期に大神宮參拜の費用に充てゝ居らるゝ事等々
- 右は何れも結構な事だと存じまして特に附記す

參宮感想記

御參宮の生徒方・左の間に答をお書き下さい

「神宮」とは何神様をお祀りしてありますか

正しい参宮の順序と奉拜の仕方は

神宮と皇居の遙拜はどうするのか

神嘗祭は何月何日で、神宮へ何を奉奠するのか

外宮大宮内にある互助和合の形の若杉はドコにあるのか

外宮の御宮域にて、さし登る朝日の輝きが拜まつされた心持ちは

高穗千館

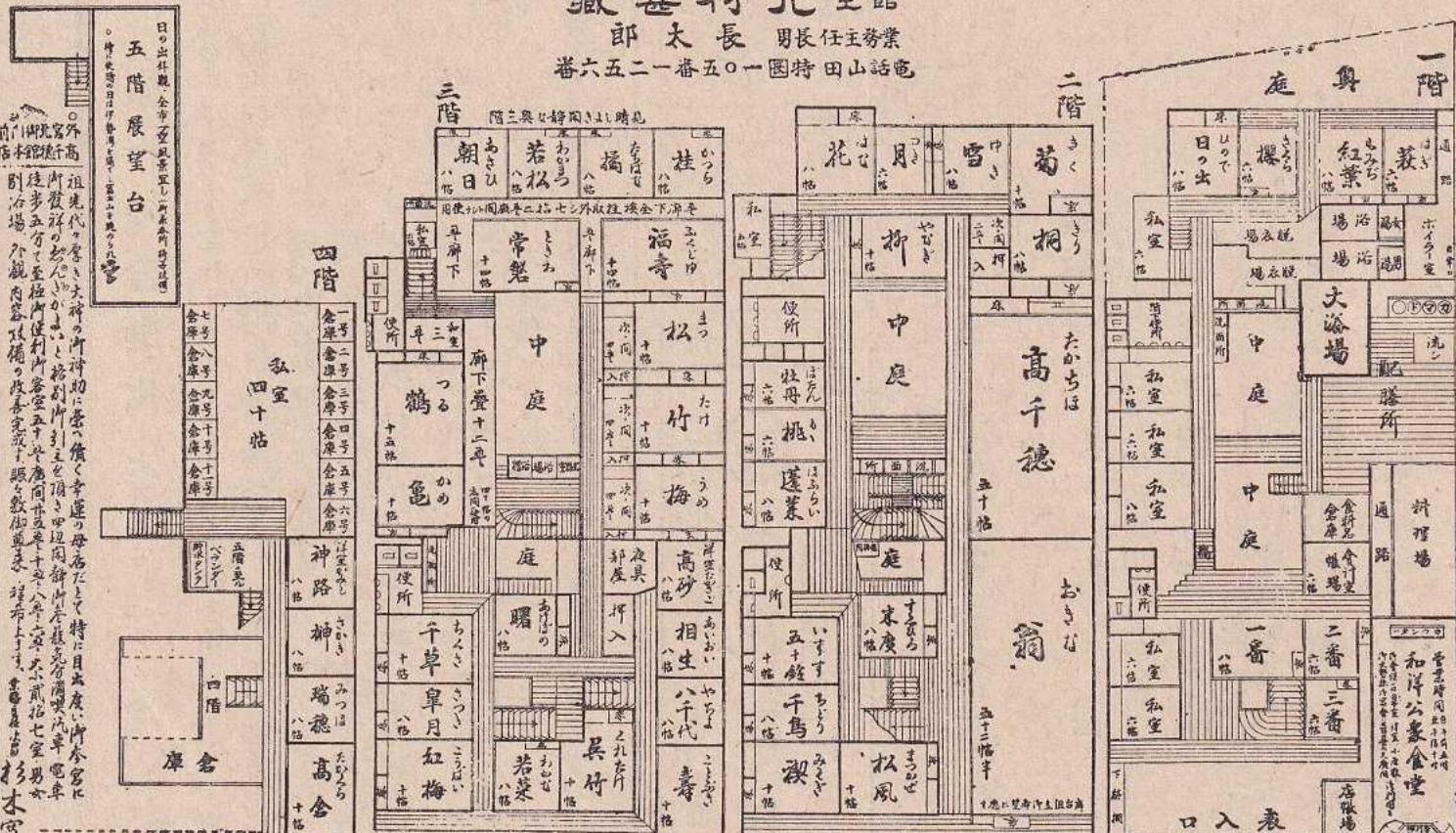
藏甚村北主館

郎太長 明長任主務業

番六五二一番五〇一國特 田山話電

平面向量

伊勢山由驛前



本町通り電車道

旅行の合理化（大安心の旅行方法）

それはツーリスト・ビューロー・クーポン券御利用で（汽車、汽船、自動車の賃金、旅館宿泊料等）總べて（上、中、下）御希望に應じて一纏めにした連帶切符を發行されます。

旅館では特に入念懇切、御優待奉仕に努め、尙茶代不要で御旅行中毫も御心配なく至極御便利で、近來多人數の團體、修學旅行の御一行も御利用の向多く沟に都合がよいとの御好評

◎最寄のツーリスト・ビューロー案内所へ御相談になれば、行程表、時間割等作製して親切に取扱ひになります。

又御遠方の御方は書面にて御照會あれば即時回答されます。

鐵道省指定旅館
ツーリスト・ビューロー
クーポン
南滿洲鐵道會社



大阪市道頓堀エビス橋通中筋
浪花旅館
電話園南(5)二一五八番
事業主任 三男富雄

昭和九年七月二十日印刷
昭和九年七月廿五日發行
昭和九年九月一日二版發行

（非賣品）

編輯兼

北村甚蔵

发行人

沼元映

宇治山田市大字本町一八三ノ六

發行所

高千穗館出版部
伊勢山田市本町
電話持番一〇五番・一二五五番一二五六番

◇光榮末代◇ 一路御平安目出度御參宮を祈り上ます

伊勢山田驛前左側二軒目

高千穂食堂館

電話 開一一二五六番

◎御饌當、和洋御食事至廉御用命希上候

外宮北御門前

高千穂館本店

北村屋甚藏

電話一五一番

外宮の神にこなれる館なれば

名も高千穂こいふぞむべなる
と號命名を頂きましたが、げに
参宮にはふさわしい館名だと多々

御用命を辱し喜んでおります

◇弊館の至寶◇

弊館は先祖代々厚き御神助に御参宮各位より深く御愛顧を蒙り
先代兩親は毎朝参宮御得意様の御安泰を祈り明治四十三年には
金婚式祝賀を舉けさせて頂き當時神宮大宮司三室戸閣下より
酌かはす酒のいろさへ金にていかにはえある祝なるらん
の祝歌を頂き一家の面目を博し之を扇面・盃に記し廣く呈上致
ました、お蔭で愈業務發展山田驛前支店大阪万浪花旅館を擴設
益繁榮幸福を續け目出たい参宮に最も(ゑんき)のよい發祥旅館
だぞ御好評を受け之れ皆先祖の御余光と家族一同歡喜して唯々
御客様大事ご勵精致してゐます、乞ふ賑々敷御尊來あらん事を



書謹生先房安勝舟海臣功治明・贈寄御様客定御賜
團行旅御學修校學各・館學皇宮神・員職省道鐵
券指定ソボーグークーピースリーツ

